

I 地域の概要

1 地勢と気象

空知管内は、北海道の中央部よりやや西方に位置し、東西約70km、南北約130kmに及ぶ広大な内陸地帯で、ほぼ中央部を石狩川が縦走し、南西部にかけて豊かな石狩平野が広がっている。

10市14町で構成され、総面積は約5,791km²で全道面積の約7%を占めている(図1)。

気象条件は、南北に細長く続く内陸地帯のため、南部と北部では差があるものの、暖候期間は比較的恵まれた気象条件であるが、冬季は季節風の影響を受けて、道内屈指の豪雪地帯となっている。



図1 空知総合振興局管内市町

2 土壌

空知管内の中央低地部地帯は強粘質の沖積土が主体で、さらに泥炭土が入り込んで分布していることから、排水不良地が多い。

北部の石狩川及び空知川の両岸には、砂質系の沖積土が農耕地の大部分を占めており、その周辺部には粘土質の低地土が大きく広がっている。

南部の夕張川沿いには排水の良い砂質系沖積土が分布し、南端では火山性土も見られる。

3 空知農業の概要

空知管内の農業は米生産が主体であり、田の耕地面積は北海道の41%を占めている。また、農業産出額でも米の産出額は全道1位であり、北海道を代表する米産地といえる。

また、花きや果樹の生産も盛んで、農業産出額で見ると花きは北海道の約35%、果樹は約16%を占めている。

表1 空知農業の概要

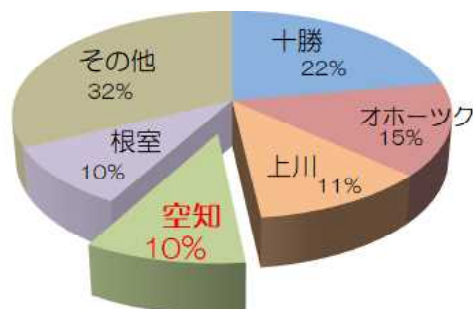
項目	区分	年(産)	単位	空知	北海道	A/B	
				実数(A)	実数(B)	(%)	
耕地面積		H28	ha	113,800	1,145,000	9.9	
				田	91,100	222,300	41.0
				畑	22,700	922,700	2.5
総農家数		2015	戸	7,862	44,433	17.0	
				販売農家数	6,641	38,086	17.4
農業就業者数			人	16,413	96,557	17.0	
農業産出額		H28	億円	1,021	12,115	8.4	
				耕種	919	5,130	17.9
				米	519	1,167	44.3
				麦類	24	165	14.5
				雑穀・豆類	34	225	15.1
				いも類	11	780	1.4
				野菜	273	2,206	12.3
				果樹	10	61	16.4
				花き	41	118	34.8
				畜産	102	6,986	1.4
生乳	27	3,641	0.7				
肉牛	34	1,041	3.3				

(北海道農林水産統計年報)(2015世界農林業センサス)(北海道農政事務所統計情報)

4 農業構造

(1) 耕地面積

空知の耕地面積は113,800haと、全道の耕地面積1,145,000haの約10%を占めている(図2)。そのうち約80%が田である。



資料: 北海道農林水産統計年報
図2 振興局別耕地面積割合

ア 水稲作付面積

平成29年度における水稲作付面積は、空知は45.4千haで全道の約44%を占めている(図3)。また、水稲収穫量も259千トン(全道の45%)で、全道一の米生産地帯となっている。近年、空知管内では、直播栽培向けの品種導入や暗きょを利用した地下かんがい等、革新的な技術をベースに省力化や低コスト化をねらいとした水稲直播栽培が増加しており、地域農業の展開方向の一つとして期待が高まっている(図5)。

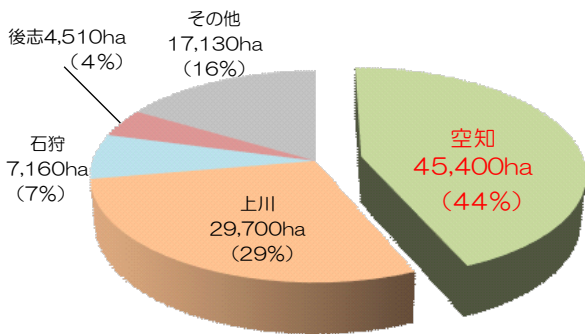


図3 振興局別水稲作付面積(平成29年)

資料：北海道農林水産統計年報

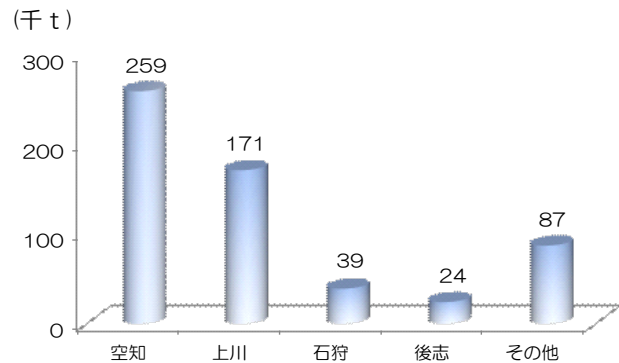


図4 振興局別水稲収穫量(平成29年)

資料：北海道農林水産統計年報

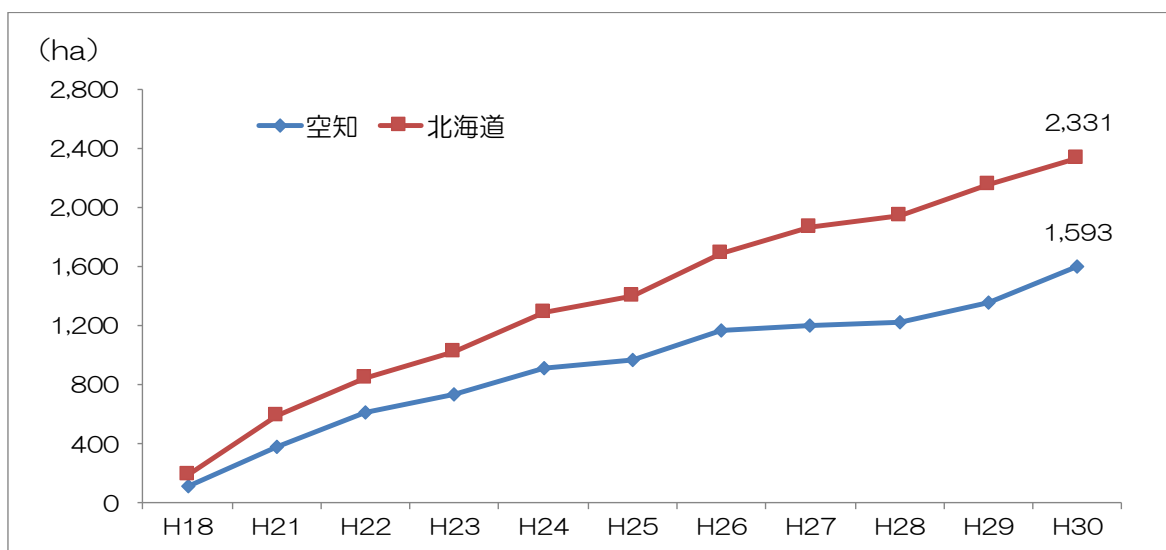


図5 水稲直播栽培面積の推移

資料：北海道農政部「稲作調査」

イ 畑作物等の作付面積

空知管内の畑作物については、水田の転作作物として栽培されており、主に小麦、大豆、そばが作付けされている(表2)。特に、大豆は全道一の作付けを誇っており、そばは上川管内に次いで2位、小麦は十勝、オホーツク管内に次いで3位の作付けとなっている。

また、野菜や花きは、水田農業における所得確保の手段として作付けされている。

表2 畑作物等の主な作付面積(H29) (単位:ha)

区分	空知管内	全道	全道比
小麦	18,800	121,600	15%
大豆	10,500	41,000	26%
そば	6,950	22,900	30%
主要野菜	4,236	46,528	9%

資料：北海道農林水産統計年報、野菜は道農産振興課(H27)調べ

(2) 農家戸数

総農家戸数は平成7年の14,490戸から27年には7,862戸となり、ここ20年間で半減した。専業農家戸数は平成7年には4,530戸だったが平成27年には4,164戸と、減少する割合は少なくなった(図6)。



図6 農家戸数の推移

(北海道農林水産統計年報)(2000～2015年農林業センサス)

(3) 年齢別農業就業人口

平成27年度の空知管内における農業就業人口は約16千人であり、平成7年の27千人から20年間余りで59%に減少した。農業就業人口に占める20～50歳代の層は平成7年には62%存在したが、平成17年は53%、平成27年度には46%となり、高齢化が進んでいる(図7)。

65歳以上の割合は、平成7年には28%だったが平成17年には36%、平成27年には39%へと増加している。

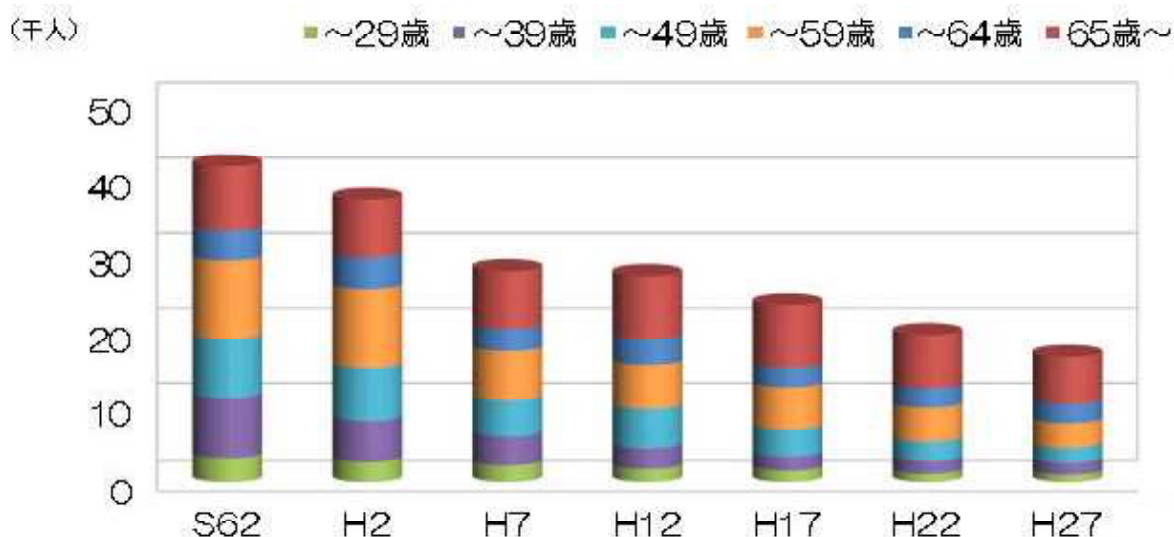


図7 年齢別農業就業人口の推移

(北海道農林水産統計年報)(2000～2015年農林業センサス)

(4) 経営耕地面積

担い手の高齢化が進み、労働力不足や後継者不足等が相まって農業経営体数が減少している。このことによって販売農家1戸当たりの平均耕地面積は平成17年の12.5haに対し、平成27年は約37%増の17.1haとなり、今後さらに拡大することが予想される(図8、図9)。

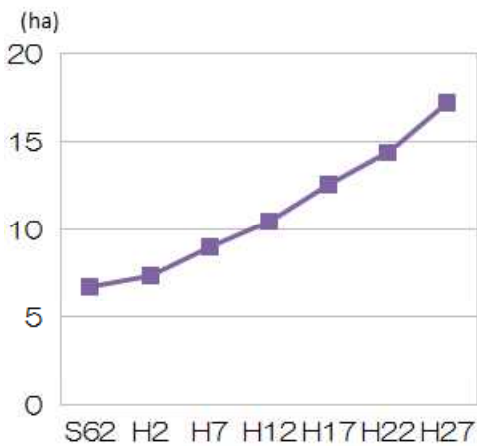


図8 平均耕地面積の推移

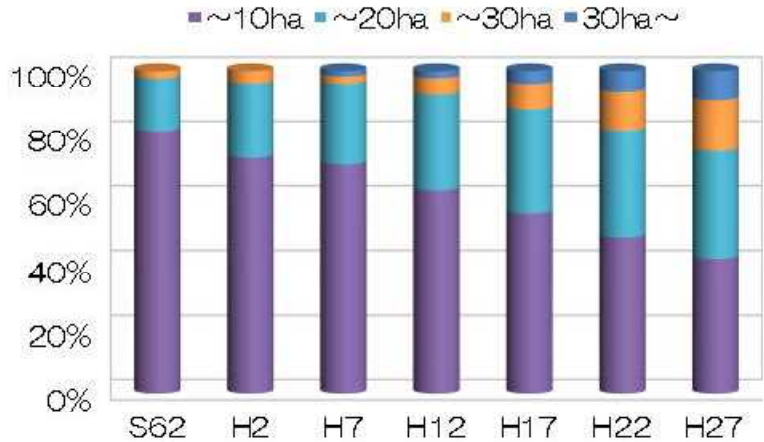


図9 経営耕地面積規模別経営体数比率の推移

(北海道農林水産統計年報)(2000~2015年農林業センサス)

(5) 農業産出額

空知管内の農業産出額は平成6年に最高額の1,675億円に達したが、その後は漸減傾向で推移し、平成18年の農業産出額は1,089億円、平成28年には1,021億円となっている。その内訳では米の割合が高く、平成28年は519億円で農業産出額の約5割を占める(図10、表3)。続いて野菜274億円、畜産102億円、畑作69億円(麦・雑穀等)の順となっている。

地域別では、北空知支所地域、中空知支所地域及び本所地域で米の比率が高く、特に中空知および北空知支所地域では農業産出額の69%を米の生産で占めている。

南東部支所地域、南西部支所地域では、野菜類や畑作物の割合が高い傾向にある。

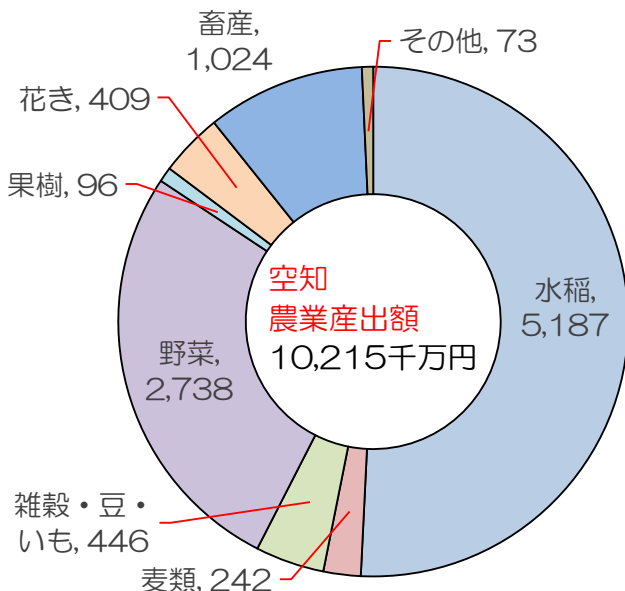


図10 空知農業産出額の構成(H28)
(農林水産省統計情報「わがマチ・わがムラ」より)

表3 空知農業産出額の作物別割合(H28)

順位	作物	%
1	米	51
2	野菜	27
3	畜産	10
4	畑作	6
5	花き・果樹	5
6	その他	1

(農林水産省統計情報
「わがマチ・わがムラ」より)